

Y a 2008 No.37



これは世につたえておきたい
かたっておきたい
わが胸の底から真実のおもい
人生幾山河のめぐりあい
あの日の風やひかり そして空のひとひら
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路
「自分史図書館」はその証言館です。

人生史サークル「黄櫨の会」会誌 『黄櫨』30号をつみかさねる



編集長 椎窓 猛

去年12月22日、『黄櫨』
創刊以来30号のつみかさね
を記念し、八女市のメモリアル
ホールいわ井で祝杯をあげ
た。創刊は平成9年の8月、
以来10年の歩みがこの30号
の累積である。この日は、第
14回松本清張賞を受賞した

新人作家葉室麟さんを招き記念講演を催した。新人とはいえ、葉室さんは56歳、『文芸春秋』07.7月号に受賞作「銀漢の賦」のくわしい選評が掲載されているが、なかでも伊集院静氏は「匂い立つ果実のような作品」と賞讃していた。葉室さんの作家としてのスタートを激励、あわせて『黄櫨』30号を一里の到達点として、新たな歩みの一步を踏みだす08、平成20年を迎える心意気を示す次第であった。

30号をふりかえっての思い出の記は、編集後記にあらまし記しているが、30号そのものの内容には及ばず、この『Y a』の誌面をかりて補填しておきたい。

▶末安代表の10年の歩みを顧みながら「戦争より怖い地球温暖化、さまざまな世相が忍び寄ってきた」と未来への警告にまず注目、心にとめておくべき提言である。

- ▶常任講師安保教授の「『少女抗夫』時代の記憶」の一文、人生史執筆の原点を再確認させられる。
- ▶『黄櫨』熱い支援者、福岡文化連盟事務局長古賀透さんの特別寄稿エッセー「空のあなたの空遠く」少年の日のなつかしい山、海への回想から、長じてもなお夢を誘う山のあなた……心にうるおいをもたらされる好篇。
- ▶筑後の歌人近藤雅美さんの11首。私の胸にいたくとまった歌は、「学ぶとは寂しきものよ夏草の中の碑が言ふ「徳不孤」
- ▶沖縄「集団自決」をめぐる高校日本史教科書が問題になっている折、坂田寿生さんの「いのち」も貴重なエッセーである。多くの方に是非一読をすすめたい。
- ▶この30号にもられている内容はそれぞれに味わい深い。私はここで再度、このような八女地域からの出版物、郷土人が刊行した書物が、各市町村の図書館の正面に、出入りする人の眼にとまる場所に展示されるような取扱いを関係各位にお願いしたい。地域格差、限界集落などと、落ちこぼれの意見、くやみ言はすてて、胸を張って、ふるさと出版物をおしだすような文化の心意気を、市町村長をトップに、市町村民がこころで視点を変革いたしましょう。

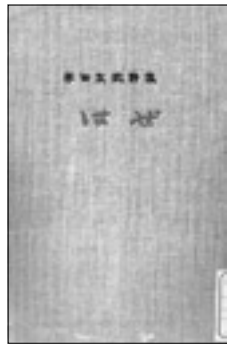
兵庫豊岡の市長さんが、コウノトリがいつも空に舞い、タニシ、ドジョウも生きて人と共に仲よく楽しく暮らしているマチづくりを提唱。「小さいマチながら、世界の人々から尊敬されるようなマチをつくりましょう」との言葉は印象深い。ここのコウノトリ文化資料館には、幼稚園、児童、生徒、学生、そして市民が資料を提供している。

受贈図書紹介 ㊥

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。
あしからずご了承下さい。

| | | |
|----------|-------|------|
| 詩集 鏡子 | 原田 暎子 | 北九州市 |
| 歌集 夕光 | 新川美恵子 | 福岡市 |
| 昭ちゃん人生 | 太田 毅 | |
| 舞 夢 | 齊藤 吉弘 | 北九州市 |
| 悲恋の女王久津媛 | 福本 英城 | 日田市 |
| 幽閉モンテルパ | 辻 長一 | 佐世保市 |
| オーイまさあーき | 東 孝 | |

| | | |
|------------|-------|------|
| 三代紀年表 | 藤田 敬治 | |
| 「自分史」を書く喜び | 藤田 敬治 | |
| 詩集 空の器 | 大石 陽次 | |
| 北やんのバナちゃん節 | 北園 忠次 | 鹿島市 |
| 句集 安曇の山河 | 柴田 長次 | 北安曇郡 |
| 歌集 天心 | 佐藤 通雅 | 仙台市 |
| 句集 流萍 | 吉村 照子 | 小金井市 |
| 句集 系図 | 荒井千佐代 | 長崎市 |
| 歌集 老春の櫓の火 | 田代 一成 | 伊万里市 |
| 句集 夜街 | 清水あつ子 | 熊本市 |



○おたより文集 福寿草
筑後市福寿草の会

「この文集は一人暮らしや病床の老人に、年四回無料で民生委員によって届けられ、又、老人クラブで回覧されています」とあとがきにあるが、代表世話人の歌人近藤雅美さん、山村知世夫さんら7名の方々の手よっての発刊。

内容、実に実人生の味わいがもられたエッセー多々。井寺容子さんの「三年五組四十一番」女優黒木瞳との同級学年、高校青春の日の回想から五十歳の現在、人生の歩みが女性的視点からほのぼのと綴られている。酒井久志さんの「裸婦系図」も好掌篇。

からたちの棘の錆色冬深し

純子

わがために陽は和らぐと思いたし
今日の青空底なしに澄む

砂恵

○平田友武詩集
はぜ

～櫨とわたしの関係は数限りなく続く。自然も、人事も、わたしの感情や、ものを観る目も総て、櫨を通して学び身につけてきたようである～と、詩人は自分の生い立ちと櫨とのかかわりを、序文に実にこまやかに記述している。「寒い冬の遊び場は櫨畑であった」といったくだりがあるが、ふるさとを色彩する櫨の風物が、幼、少年期に深い影を落していたかも読みとれて興味深い。

櫨よ ちぎれた法衣をまどって
数珠をからっ風に鳴らし それ
こそぼつねんと念佛を口ごもり
ながら

筑後路に ひとり立っている

〈聞き書き〉筑紫美主子
○どろんこ人生

自分史図書館の書棚をひとり深閑としたなかで見廻しているとき、この筑紫さんの一代記がひっそりと立っているのが私の眼にとまった。

筑紫さんといえば、昭和30年代後半から、昭和50年代にかけて、「佐賀にわか・女座長」として大活躍。人生の哀歓をおりなして独創的なドラマを演じた役者としてブームをまきおこした、あの時代の特異な芸能人であった。亡命ロシア軍人を父として生まれ、赤い髪の子といわれ忍ぶ日々から座長づとめに至る風雪人生。

こんな本も、わが自分史図書館は大切に保管しています。

○妻に先立たれた団塊の世代の男より『亡き妻へ』

西 行夫

真珠婚を前に、50代の若さで妻が急逝いたしました。私はボーッととして、ただ涙、意識錯乱しながら、葬儀、49日、もろもろの手続きを——と、西さんはエピローグをしたためている。西さんは医師。愛する妻へのせつせつたる鎮魂の書である。

僕は仕事に埋没し
君は一人でストレスを抱えすぎながら、僕の独りよがりとおもいやりのなさの中で——

でも君は恨み言ひとついわず

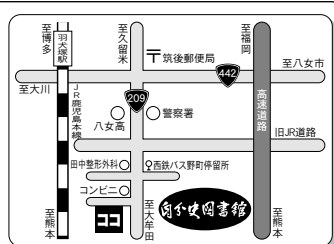
僕の仕事上での成果は自分のことのように喜んでくれた……

失ってはじめて知る妻への想い——真摯に綴られた追想譜である。

編集掌記

▼新春08・平成も20年。年々に蔵書量も増加、見る人が見れば、貴重な、めずらしい、おもしろい、そしてめったに見かけられない本が書棚に並んでいる。館長という役目から、無報酬とはいえ、ときおり矢部の山奥から下つて筑後野町のこの館長椅子に坐り、また書棚を点検する。本は黙って立っているが、手にとれば語りかけてくる。

あるときは、シミジミと、あるときは旧知旧友の如く、あるときは面白く……。▼それにしても、ボランティアで、「世界子ども愛樹祭コンクール」やら、「人生史サークル黄櫨」編集の仕事をしている立場から見れば、防衛省次官やX洋行重役やらゴルフ遊びなどの遊興ぶりニユースに腹が



自分史図書館

入館無料
開館 午前9時～午後5時
閲覧希望の方は予め電話でご確認下さい。
貸し出しはしていません。

〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122
西鉄バス野町停留所より徒歩5分
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan



立ってくる。税金でまかなわれている身分ということもときに考えしてほしい。
どうかイツワリ、ゴマカシのない佳い一年でありますように。
(自分史図書館長 椎密彦)